付稿

深浦円覚寺所蔵の中世真言聖教

――文観弘真『御遺告秘決』解題と翻刻――

阿部　泰郎

御遺告秘決　　写一帖

〔書名よみ〕ごゆいごうひけつ　〔著編者〕文観（弘真）

〔写刊年次〕南北朝初期

〔内題〕御遺告秘決

〔外題〕御遺告秘決（表紙左上、打付け書）

〔その他題〕ナシ

〔残欠状況〕全　〔保存状況〕虫損、一部本紙欠損　〔装訂〕粘葉装

〔丁数〕三十七丁　〔本文用字〕漢字　〔一面行数〕七行　〔界線〕押界　界高一三・八糎、界幅二・〇糎、上欄高一・五糎、下欄高一・七糎

〔表紙〕茶・無地　〔法量〕縦一七・〇×横一五・五糎　〔料紙〕楮紙打紙　〔書入〕黒仮名訓、返点、連読符、等　〔表紙書入〕表紙外題右「索之箱」、右下に「松橋之」（いずれも本文と別筆）の墨書あり。

〔備考〕近世の楮紙の包紙に表題「御遺告秘決一帖」その右上に「索之箱」と墨書する。

〔奥書〕

嘉暦二年乙卯十二月廿四日於
大裏仁寿殿三対屋相承
甚秘大事為付法一人記之
附法外不可有外見勿違々々
内供奉十禅師菩薩蓊　殊音

〔裏表紙見返識語〕

丈六堂聖教箱ニ在之尤
可秘々蔵々々不可有外見者
也　松橋末流求菩提沙門堯

〔解題〕

『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第一集（弘前大学人文社会学部・同地域未来創生センター「深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト」、二〇一九年）に掲載された渡辺麻里子「深浦円覚寺所蔵古典籍の概要」には、「（一）真言関係聖教および醍醐寺関係聖教」として五つの観点から分類して、円覚寺の聖教の中から抽出し紹介する。そのうち「（ア）醍醐寺との関係を示すもの」17点のうち、⑤『御遺告秘決』が注目された。その解説によれば包紙および表紙に「索之箱」、表紙は加えて「松橋之」と識語が付されて帰属が示され、「嘉暦二年（一三二七）□（殊カ）音」の奥書があり、また「丈六堂聖教箱ニ在也」とする「堯―」の識語がある鎌倉後期写本とする。この「堯―」については、醍醐寺僧で松橋流二十世堯円大僧正（一五七〇～一六三六）に比定される。同報告書に特別寄稿された永村眞「中世の醍醐寺とその仏法―「国宝醍醐寺文書聖教」を通して」三「醍醐寺と円覚寺」は、円覚寺聖教中の「醍醐寺無量寿院で生まれた聖教」に注目し、無量寿院堯雅により永禄六年（一五六三）に伝授書写された『灌頂私記并一夜記』を紹介されるに加え、「御遺告秘決」もその無量寿院（松橋）において書写された聖教のひとつとして位置付けられる。二〇一九年七月一三日の講演（弘前

大学）に先立ち、展観された円覚寺聖教古典籍と共に、渡辺教授の格別の配慮の許に実見調査を行い、本書が鎌倉末期から南北朝にかけて真言密教界で活動し、後醍醐天皇の帰依と信任を得て東寺長者・法務そして醍醐寺座主となった文観房弘真（一二七八～一三五七、以下「文観」という。殊音は文観の僧名。のちに弘真と改めた）の新出の著作であることが明らかになった。更に、本書の発見から、文観の事績や思想を解明し、ひいては醍醐寺との関わりについても新たな知見を得ることができた。それらの諸点をこの機会を得て報告したい。

文観は、播磨出身の律僧として、西大寺二世信空の許で叡尊の密教秘伝を集成する『西玉抄』を編んだ後、醍醐寺報恩院道順の資として三宝院流の伝法灌頂を禀けた。後醍醐天皇の信任を得て護持僧として秘密灌頂を重ねて授けるなど重用されるが、元弘の変に連座して硫黄嶋へ配流される。鎌倉幕府の滅亡と建武政権の成立と共に東寺長者法務へと昇進し、ついに醍醐寺座主に就任するに至った。建武政権の崩壊により後醍醐天皇と共に吉野へ移り、そこで多数の聖教を著述する。その中で、延文四年六月、天皇の崩御直前に自ら書写した空海に仮託した印信に文観がその経緯を識語に付した『天長印信』（醍醐寺蔵）が、両者の関係を端的に示している。天皇の崩御後も吉野の周辺で密教聖教の著述や宝物類を高野山等に寄進するなど各種の活動を続け、晩年は河内長野の天野山金剛寺に入り、そこで入寂した。

文観の著述は、従来、『金峯山秘密伝』（日本大蔵経、修験道章疏）や『理趣経釈』（日本大蔵経）などその一部が刊行され、また『大日本史料』には著作聖教の奥書などが採られて年譜事蹟としては知られるものの、内容については殆ど明らかではなかった。また、文観は自ら画僧としても活動し多くの仏画や曼荼羅など密教図像を描いているが、その全体像は明らかでなかった。二〇〇六年、内田啓一『文観房弘真と美術』（法蔵館）が刊行されて、弟子宝蓮の『瑜伽伝燈抄』の年譜を元に、文観の活動をその関与した図像と彫刻等の美術作品の側から考証し、年譜を含めて生涯の事蹟を明らかにした。また同年、この成果を受けて、阿部が真福寺大須文庫に伝存する文観の主著『秘密源底口決』の影印翻刻を中心に、関連する文観著作聖教文献を網羅してその概要を紹介した『中世先徳著作集』（臨川書店、真福寺善本叢刊　第二期第三巻）を公刊し、図像と聖教という宗教テクストの二つの側面から、文観に関する新たな研究の可能性が拓けた。それは、かつて網野善彦が『異形の王権』（平凡社、一九八七年）で後醍醐天皇とあわせて提示した〝異形〟の密教僧のイメージ、更に遡っては水原堯栄が『邪教立川流の研究』（一九二三年）、守山聖真が『立川流秘密史　文観上人之研究』（一九三八年）で流布させた邪教「立川流」と結び付けられた怪僧としての文観像など、従来の認識を全く改めるに至る、文観の著作や作品そのものが、中世真言密教の創り上げた独創的な達成として見直すべき対象となった。とくに文観の聖教著作は、『秘密源底口決』以外にも陸続とあらたな資料が出現しており、今回紹介する深浦円覚寺蔵『御遺告秘決』もそこに加わった新出文観著作聖教の一点ということになる。

円覚寺本『御遺告秘決』（以下、「本書」という）が、もと醍醐寺無量寿院の松橋経蔵中の一帖であったことは、表紙の「松橋之」および裏表紙見返の松橋末流を称す無量寿院堯雅の「丈六堂聖教箱ニ在之」の識語によって明らかである。また、本書は江戸前期まで醍醐寺に伝来し、書写されていた。醍醐寺聖教中に、寛文十一年（一六七一）、公円による本書の写本が存在する（一三六函一一号）。この醍醐寺本『御遺告秘決』は袋綴一冊、墨付二六丁、外題「御遺告秘決全」、表紙右上に「索之箱」同右下に「侍瑞」の伝領識語あり。末尾の堯雅識語には「堯一」の傍に「雅」字を補う。本文は、行取りや改丁は異なっているが、本書の本文を忠実に写し、虫損や破損による欠損部分まで再現しようとしている。訓点や返点などもそのまま写しているが、まま補って加えるところもある。

次に示すその公円による書写識語が、本書への認識や位置付けをよく示している。

這一帖古本、殊更依于破損、為備後證本、一字不／違令摸写訖、但、虫毒故、所々字形不見分、重而求／他本、可補之者也、誠殊勝之秘決、拜閲拭感涙而已、／寛文十一稔五月廿二日（奎宿日曜）　松門末葉公円

醍醐寺には、おそらく本書と一具であった、堯雅の識語を付した文観著作聖教『秘密源底口決』一巻（三五二函七九号）も存する。その表紙に「丈六堂／無量寿院尊信」の識語、奥書に「以御本敬写書之畢、金剛仏子殊了（ママ）、／本云、／正平廿四年五月廿七日、書写了、／金剛末資堯秀」の本奥書と、「丈六堂無量寿院／聖教流通物也、／求法沙門堯雅」の堯雅識語を付す、室町前期と判定されている写本である。すなわち、醍醐寺では、無量寿院を本所とする松橋流の相承において、室町末期まで（公円の写本に見るように江戸前期までも）、文観の著作聖教は受け継がれ、尊重されていたのである。そこには、文観を「邪義」等として異端視し排除する意識はうかがえない。

本書は、祖師空海の二十五箇条『御遺告』を正典とし、その注釈の形をとった「秘決」、すなわちその本文に籠め蔵された秘密の意義を説き示す口伝の書記化である。全体はおよそ三部から成り、最初に「師主御伝」によるその大事の意味を概説し、次に『御遺告』の「正文」本文についての「習事」を、まず後半の第二十二章・二十三章・二十四章・二十五章の四章について、それぞれが灌頂と「避蛇法」、「如意宝珠法」、「奥砂子平法」という真言密教、とりわけ小野三宝院流における秘法の大事を明かす本文として、その条を掲げて相承の秘伝を開示する。前半は、「已上、後四章秘決畢」で締め括られ、後半は、第一章について、大師もまた本尊として、その童子から出家得道に至るその本地の相をやはり本文を掲げつつ「秘決」によって開示して、最後に「已上、先師大僧正、示授口決也。紙図雖不載之、為末資記之而已」と、本書の所説が「先師」道順の口決に拠るものであることを示し、冒頭の「師主御伝」と呼応する。また、全体で五箇処にわたり冒頭ないし末尾に裏書注記を施した文章が挿入されており、これは底本となる本来の写本が巻子本であって、その裏書注が表の本文の当該箇処の次に移されたものであろう。さきの結びの後に、文観による「嘉暦二年十二月廿四日」に始まる著作識語が付されるが、注目されるのは、この日付の直前に、もうひとつの文観の主要著作である『御遺告大事』が、やはり「先師」道順の「御口授」を記した旨の識語を付して成立していることである。その最古写本である慈眼寺本の奥書識語を以下に示す。

已上、先師東寺一長者醍醐寺座主前大僧正道―（順）御口授如此。古来未載紙図、今為付法、恐々記之。両部諸尊八大高祖、垂哀愍而已。

嘉暦二年十二月廿一日、密々御修法間、於禁裏仁寿殿第三対、御為当流、最極大事嫡々相承秘奥、為付法一人記之。写瓶外不可開見々々々々。若違此言、両部諸尊大高祖知見證罰給。重々秘決、別記之。

『大事』の方が文言を詳らかにするが、大旨は同様であり、とくに末尾で「重々秘決」を別に記すと示すのが、二日後に記された本書に該当するであろうことが注意される。つまり、『大事』と本書『秘決』とは、宗祖大師の『御遺告』という真言宗の聖典をめぐる一具として二つの位相から解釈を企てた宗教テクストなのである。

その認識は、『御遺告大事』のテクストを検ずれば更に確実なものとなる。『御遺告大事』は、「東長大事」という仮題で奈良国立博物館の特

別展図録『仏舎利と宝珠』（二〇〇一年）に全図が影印で紹介されて広く知られるようになったが、更にその前欠を補う実践女子大学蔵山岸文庫本の影印紹介等によりその全体像が明らかになった。それらにより内容を概説すれば、『大事』は、『御遺告』に拠ってその初段から第二十二段より二十五段まで、つまり『秘決』と共通する本文について、これを三宝院流の三尊合行法の本文として、諸先師の秘伝により、その本尊の図像と曼荼羅図を計九図相にわたって示し、その秘説を注記解説していく、つまり本尊図像テクストと秘伝注釈テクストが一体複合したものであり、詳述は他日に期すが、順序こそ異なれど、その内容は全て本書と対応している。

文観にとって、この『御遺告秘決』と『御遺告大事』とは、その二年前の正中二年（一三二五）十月に後醍醐天皇に印可を授け、内供奉に任ぜられた後、この年の十月には内裏仁寿殿にて両部伝法灌頂を授けた（宝蓮『瑜伽伝燈鈔』）、その直後、しかも同じ仁寿殿において著したものである。それは宗祖大師の聖典を拠として、三尊合行法という、東密真言宗と法流によって究極の秘法に再創造する場として最もふさわしい状況であったことは言うまでもない。醍醐寺から円覚寺に伝わった『御遺告秘決』は、このような中世密教が国家王権と結びついた歴史の所産をあざやかに伝えて、貴重な発見をもたらしてくれている。

栄編『舎利と宝珠』、『日本の美術』五三九、ぎょうせい、二〇一一年）

・同「中世密教のスペクトラム」（『芸術新潮』二〇一一年八月号、新潮社）

〔参考文献〕

・内田啓一『文観房弘真と美術』（法藏館、二〇〇六年）

・阿部泰郎『中世日本の宗教テクスト体系』第九章「中世密教の極北——文観弘真の三尊合行法テクスト」（名古屋大学出版会、二〇一三年、初出二〇〇九年）

・同『中世先徳著作集』（国文学研究資料館編『真福寺善本叢刊』第二期第三巻、臨川書店、二〇〇六年）

・同「宝珠の象る王権——文観弘真の三尊合行法聖教とその図像——」（内藤

翻刻『御遺告秘決』

〔凡例〕

一、底本である円覚寺本『御遺告秘決』の本文内容を翻刻により再現するために、以下の各号による方法をとった。

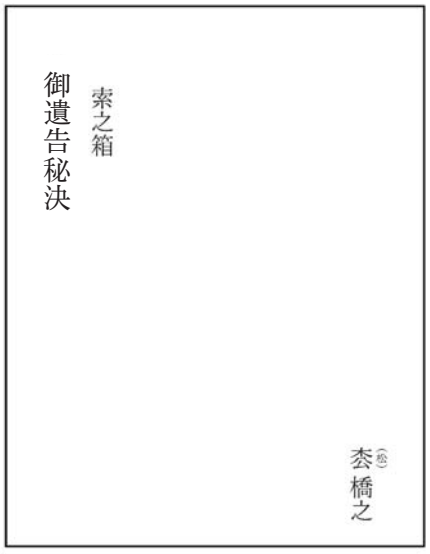
一、底本の本文は、半丁毎の改行のみ「○オ」「○ウ」で示して改行し、底本の段落・箇条・事書等の改行を除いて、本文は全て追い込みとした。

一、字体は全て正字体もしくは通行の字体を併用し、異体字は私に訂し、略字は開いて記した。

一、訓点・返り点は底本に付された分に加えてレ点二点等を私に補った。

一、私に句読点を施した。

一、裏書注を示す「ウラ」等の傍注により、注文部分の本文を〔〕で示した。



御遺告秘決

師主御傳云。今此ノ遺告、東寺一家ノ大事、真言一宗ノ□(骨)目也。此中ニ、有リ四箇ノ大事一。(廣即七箇也)。此即、嫡々相承ノ秘密、三國傳来ノ秘奥也。此四箇ノ大事、略スレハ但二種也。即、法ト与レ人、是也。此即、人法々尓トシテ、々々常恒之法門（1オ）也。其ノ法者、即、灌頂大事也。人者、即、灌頂之實躰。所顕ノ本尊也。其ノ灌頂ノ法ト者、此レ即、印言ナリ。此ニ有二三重一。此レ即、自宗ノ重事、成佛ノ極理也。此ノ阿字五智ノ瓶水ヲ、灑テ二丸字五大ノ身頂一ニ、開発シ万徳ヲ一、成二就理智ヲ一、坐シ自心ノ性蓮一ニ、登テ二佛果帝王ノ位一ニ、開ク本（1ウ）地ノ常身ヲ一。此ヲ云二即成佛ノ法一ト。此三重灌頂ノ大事ハ、第二十二ノ章段ニ、具ニ明レス之ヲ。此即、法也。

次、灌頂ノ人躰ト者、是、台金・身心ノ定恵不二一、浄菩提心ノ如意珠ナリ。此、其ノ灌頂ノ實躰也。宝珠、是、南方染浄平等ノ躰ナリ。宝珠是、舎利ナリ。如来ノ[illegible]是也。舎利ハ（2オ）是、北方尺迦ニハ砕身。南方ノ宝生ニハ全身也。即、北方ノ水、和シテ南方ノ火一ニ、水火和合シテ能ク生シ二万物一ヲ、和シ二万味一、鉤二召スル万徳ヲ一、能具ノ人躰ナリ。是レ、大日、帝王ノ位也。是、東西理智ヲ、南北□(不カ)二一スル人也。是ノ故ニ、大日、恒ニ向二南方一ニ。灌頂ノ壇ヲ向テ南ニ建ツ之一ヲ。所謂心ハ、是胸ナリ。々ハ是レ心。南方ハ夏ノ（2ウ）時ナリ。肉心即有胸一ニ。此ノ中ニ有リ二了知八識一。此ノ第九性浄ノ蓮躰、即、浄菩提心ノ宝珠也。亦、南ハ是火ナリ。々能ク生ス土一ヲ。々ハ此レ中也。故、今浄心ノ肉心、在テ胸一ニ、住二止ス能住ノ心數一ハ。随二テ所住一ニ顕ス形ヲ。所住ノ肉心、是レ團圓ノ宝珠也。故ニ、能住心法モ、月輪ヲ為像一ト、肉心ノ外ニ无二心月一。肉心全ニ心法ナリ。此ヲ名二ク不（3オ）二一心ノ宝珠一ト也。今肉心、台藏ニハ且ク云二日輪一ト、了知心法ヲ。金界ニハ此ヲ云二月輪一ト、日月不二一ハ、即宝珠也。此レ即、五大所成ノ塔婆ニ肉心安二五智所成ノ心宝一ヲ。此ヲ云二六大法界ノ塔婆一ト也。万徳聚成スル塔ト幢ト、是也。塔ヲ名二ク功徳聚一ト。幢ヲ号二ス与願印一ト也。此、灌頂ノ本源、大日如来ノ自證也。（3ウ）此レ、自證ノ宝朱、并具ス大悲般若ノ二徳。即、宝朱上半ノ三角ハ是、般若ノ智火ノ躰ナリ。下半ノ月形ハ、大悲説法ノ語風ナリ。惣、圓(本ノママ)(玉カ)王ノ像ハ即、大定无相ノ宝朱也。是、大定智悲三徳ハ、約二衆生一ニ、是三毒也。其ノ上半ノ大智ノ徳、現シ二染愛明王ノ身一ヲ、摧テ二黒業ノ殃蛇一ヲ、令レ成二生佛无二ノ悉地一ヲ、

第二十五ノ（4オ）章、是也。即、奥砂子平ノ法也。

次、大悲下半力、現不動明王ノ身ヲ、滅國土ノ災害ヲ、白蛇灑甘雨ヲ、施護國護民ノ益ヲ。仍、奥蛇ノ法ハ、且破佛法ノ怨敵ヲ、白沙ノ法ハ、且滅國土ノ災障ヲ也。可知ル、佛法王法ノ護持スル法ノ骨目也。是ノ故ニ、今、三尊合修ノ法ハ、即、灌頂修行ノ妙業也。仍、（4ウ）三尊ハ即、三重灌頂ノ次第也。即、第三重ハ、不二一心ノ灌頂、是、中臺宝珠ノ法ナリ。右方ノ奥砂ハ、即、一身二頭ノ像。是、第二重、一印二明ノ法躰也。左方避蛇ハ、此、二タヽヒ傳ス二身ニ。即、初重、二印二明ノ像也。於此ノ三寸（尊）ニ、三寸各別像、三寸一躰ノ像、二傳在リ之。今、廿三ノ白蛇ト、廿四ノ宝珠ト、（5オ）廿五ノ奥砂ト、此ハ且ク似タリ三寸各別ニ。此三段連立ノ次第ハ、本尊安置ノ次第也。最初ノ白蛇ヲ、本尊ノ左方ニ観レ之ヲ。奥ノ殃蛇ハ右方ニ観レ之ヲ。但、白ハ金ノ故、右方置レ之ヲ。赤台ノ故ニ、左方観スル之傳、在レ之。但、左右對二本尊行者一ニ、互ニ有二左方義一。（甚秘尋レ之）亦、貞観寺ノ甚深秘記并ニ天長八（5ウ）年二月六日、大師授二真雅一ニ給次第ハ、三尊各別像ナリ。前ノ甚深秘記ニモ、宝朱ヲ為ス二中尊一ト。後ノ二月六日ノ御傳受ニハ、如意（輪脱力）ヲハ為中寸ト、甚深ノ旨、習レ之。

次ニ、三寸一躰ノ事ハ、今、遺告ノ第一ノ章ニ付テ習レ之ヲ。三宝（院脱力）権僧正ノ大治御記ニハ、如意輪ヲ為二中尊一ト。但、有ル甚秘ノ習一也。（6オ）

今、此ノ三尊合一行ハ、東寺一家ノ大事、法流最極ノ秘密ナルカ故ニ、遺告ニ殊ニ被レ示レ之ヲ。三宝院ノ正嫡、独ハ傳レ之ヲ故ニ、三宝院ノ密号ハ、付ノレ尊ニ名二付之一レニ。但、有テ二義一名クルナリ。一ニハ三流相承ノ秘流ナルカ故ニ、号二三宝一。即、義範ノ三重灌頂、範俊ノ瑜祇ノ大事、定賢ノ霊ノ灌頂。此ノ三箇ノ大事相（6ウ）承流ナルカ故ニ名二三宝一ト也。二者、三尊ノ秘奥、灌頂行儀ノ甚深ノ之極理、此ノ流ニ独トリ相傳スルカ故ニ、号スル云三宝院一ト也。

一、付二御遺告ノ正文一ニ習事

輙ク不レ可レ授ツク二傳法灌頂阿闍梨職位并ニ兩部大法ヲ一縁起第廿二云云。

今ノ文ニ、傳法灌頂ト者、是レ秘密第二（7オ）重、一印二明是也。此レ、具支灌頂ノ所傳也。阿闍梨職位ト者、第三重一印一明ナリ。此レ、台金兩部至極ノ阿闍梨位也。秘経云。大阿闍梨、應作此法、若シ諸阿闍梨、曽シレ入二金剛界大灌頂一、及受二金剛界阿闍梨位一ヲ文。此ノ文ノ中ニ、大灌頂ト者、今ノ傳法灌頂一印二明位也。金（7ウ）剛界阿闍梨位ト者、今、第三重、不二一心ノ印明ナリ。彼ノ經ハ、本有金剛界ノ故ニ、呼テ二兩部一ニ云フ金剛界ト也。

次、兩部大法ト者、初重ノ二印二明ノ位。大師、六月上旬、入二台蔵壇一ニ、沐シ二五部ノ智水一ヲ、後ニ具ニ學シ二台蔵ノ大法一ヲ、七月上旬ニ、入テ二金剛界壇一ニ、同ク沐シ二五部ノ智水一ヲ、後ニ習フ二也金剛界ノ（8オ）秘法一ヲ。此レ即、六七受明灌頂ノ兩部大法ノ位也。亦、秘傳云。傳法灌頂トハ者、指ス二三重灌頂ノ位一ヲ。阿闍梨位ト者、八月上旬ノ三部五部都法ノ大阿闍梨位ノ印明也。此レ、當流至極ノ所存也。但シ、第三重ノ印明モ、同ク八月上旬ノ御相傳也。兩部大法灌頂ニ、有二三重一。八月上旬大阿闍梨（8ウ）位印明ニ、亦有リ二三重一。此レ同、今ノ三尊秘密ノ法義也。

即、至極義云。大阿闍梨位ノ三重ヲ、三寸合修ニ習合スト者、即、法性不二大阿闍梨印言ハ、今ノ中寸（尊）宝珠ノ法也。（甚深々々）此即、不二一心、以心傳二心一灌頂也。次ニ、三部惣摂阿闍梨位ノ印明ハ、今ノ白蛇ノ法、（9オ）三寸不動ノ内證也。次ニ、五部都法阿闍梨位ノ印明ハ、今奥砂子平ノ法、五指量愛染ノ自證也。甚秘々々。

但、此ノ法ハ者、是レ如意宝珠文。

灌頂ノ印明ハ、即、宝珠ノ法故ニ、以テ二灌頂ノ印言一ヲ比スル二宝珠一ニ也。大日經ニ云。真言ノ如意珠、出二生ス身語意一ヲ。亦云ハク。浄菩提心如（9ウ）意珠印、世間ノ勝希願文。

請来表云。佛舎利八十粒、是ヲ為スト二傳法灌頂ノ印信一ト。舎利・宝珠同躰ノ義、當流ノ秘説也。下ノ注文ニ云ク。復、東寺ノ大經蔵ノ佛舎利ハ、大阿闍梨、須ク如シ三守一惜スルカ二傳法印契密語一ヲ、勿三令ルコト二一粒他散一。是レ即、如意宝珠ナリ。是即、護ルモノ道一ヲ以（10オ）何ヲ言フ之一ヲ。彼ノ能

作性玉ハ、心本ノ之故ニ文。甚秘々々灌頂ト、宝珠ト、舎利ト、月輪ト、蓮花トハ、同躰異名也。胸中ノ肉心ハ、是レ即[illegible]ノ實心、是八分肉段團形、是、性浄ノ蓮花ノ故云二蓮花トモ一。是、赤白和合ノ圓玉ナルカ故ニ、云二日月輪一也。今ノ文、取レ玉ヲ載頂シテ、可二月輪観行一云云。護摩軌云。専浄（10ウ）菩提心月輪如意珠ト文。甚秘。思之

一、避蛇法第二十三章段

今避蛇法ハ、異傳多シレ之。但シ、當流秘説ニハ、以二不動ヲ為二本寸一ト。其ノ旨、貞観寺御記見タリ。不動ヲ名二避蛇一ト事ハ、仁王經ニ見タリ。即、宝珠ノ異名也。仁王經ノ本寸ハ不動尊用レ之ヲ。經躰、亦宝珠也。今、不（11オ）動明王、入二宝部ノ三昧一ニ、避二黒業ノ毒蛇一ヲ、而現二大悲白蛇一ト、施下二甘雨遍潤ノ益一ヲ。約二尊躰一ニ名二白蛇一ト、約二迷蛇一ニ也。不動住ス二倶利迦羅大龍ノ三昧一ニ。思二合之一。ウラカキ

不動名避蛇事

〔最秘傳云。今尊、入二火生三昧一ニ、現二迦楼羅鳥炎一ヲ、呑二瞰ス悪毒ノ蛇龍一ヲ。故云二（11ウ）避蛇一ト也。悪龍ハ損ヲ二國土一ヲ故ニ、亦現二倶利迦羅大白龍身一、能益二國土一故ニ、号スル白蛇上ト也。〕

一、籠二道肝一ヲ於精進峯一ニ文

此道肝ハ者、即、上ミニ所擧一クル灌頂相承ノ印明也。即、恵果相承印信ノ文、両部大法大阿闍梨位ノ印言文也。此ノ中ニ、両（12オ）部大法者、台蔵三部阿闍梨、金界五部阿闍梨位也。次ニ、大阿闍梨位者、法性不二一心灌頂、即三部五部都法ノ大阿闍梨印也。此レ當流最極秘説也。三重灌頂印信モ、同ク籠彼ノ峯一ニ。是亦道肝也。同シク三衣箱ノ底ニ納二置此一ヲ也。両部大法大阿闍梨（12ウ）位、毗盧遮那最極傳法密印、是即、我道ノ肝心也。廣智三藏、自天竺一歸テ、唯恵果一人ノミ授レ之ヲ。和尚、亦大師一人ノミニ授レ之ヲ。全ク餘人ニ不授之一。最秘々々。

一、本尊海會安彼ノ岫一ニ文。（13オ）

今、本尊者、今ノ白蛇本尊、即、白銀所成ノ三寸ノ不動。此レ、鐵塔相承ノ意也。

一、如意宝珠法第二十四章

今、此ノ宝珠ハ、即、三寸ノ中尊ナルカ故ニ、最中ニ置レ之ヲ。注文云。護二守此ノ法一ヲ、宛モ如二傳法灌頂印契密語一ノ文。此ノ法ハ、即、灌頂ノ實躰故、以テ比ス二灌頂ノ密語一ニ也。（13ウ）造珠ノ事ハ、自宗ノ大事也。輙ク不可記之ヲ一。一々ノ文段、別ニ記レ之ヲ。但シ、大唐大師阿闍梨耶、所ノ被二付属一セ、能作性ノ如意宝珠、載頂渡二大日本國一ニ、勞籠ルコト名山ノ勝地一ニ既畢。彼ノ勝地者、所謂ユル、精進峯土心水師修行之岫東ノ嶺而已。（14オ）

今、此ノ宝珠ハ、即、大日如来ノ全身、諸佛菩薩ノ通三形。是レ塵數三昧ノ惣躰ナリ。故ニ、此ノ宝珠、安ス彼ノ山一ニ。彼ノ山即、日本國ノ中心也。此ノ國ハ、其ノ像似タリ二獨古一ニ。今ノ宝珠ヲ、彼ノ獨古ノ中心ニ安レ之ヲ。日本記ニ云。大日印文ト者、指（補入）ス二杵ノ形一ヲ也。今宝珠在所ノ國故、云二大日國一ト也。注文ニ、舎利宝珠一異ノ事、（14ウ）准二此ノ文一ニ相二傳之一ヲ。

〔問。大師初相承之、安ス二彼ノ山一ニ。國ノ名ハ元ヨリ在レ之、如何。答。秘決ニ云。大日經、不レ知二相承一ヲ。而我朝元在之一。亦、法相宗ノ本論三十頌、尺尊未出一前ヨリ我國在ハ之一。彼西天ノ佛入滅ノ後、八百年在之一。甚秘々々已上。〕（15オ）

彼精進峯安置事

相承口傳云。彼精進ノ峯ノ巖屈ノ中ニ、八角石ノ箱在之一。彼中亦銅ノ箱、其ノ中ニ銀ノ箱アリ、其中ニ亦金箱在之一。其ノ上ノ銘ニ云二恵果相承如意宝珠一ト。

得如来頂骨也。承元日承和元年事。

亦、彼宝珠安置巖崛石ノ戸ノ銘ニ云。（15ウ）此、大師御筆石面碑文。吾昔シ侍ヘテ如来舎利配分之莚一ニ、親タリ分受スルコトヲ得タリ也。其名号光明遍照高貴德王菩薩也。為レ興ンカ二最上乗一ヲ、得二如来ノ頂骨一ヲ。舎利気器ノ故ニ、得二背骨一ヲ。為ニ成二如来隠密之悉地一ヲ、得二如来常隠脇骨一ヲ。此レハ是レ、三部相應大如意

宝珠、五部成就ノ精進、（16オ）以此ヲ潤シ國土ヲ、雨宝ヲ利下フ群生ヲ。迷ノ故ニ、受クレトモ利ヲハ不覺セ。末流ノ弟子、専ラ修シテ此法ヲ、當ニ利シ群生ヲ、興ニ隆ス佛法ヲ、令他自然ニ發サ菩提心ヲ、修セ菩薩行ヲ文。法ノ甚秘在之ニ。此レ宗ノ大事、法ノ源底ナリ。故ニ、遺告ノ中ニ、殊ニ記之ヲ。一長者ノミ令勤仕セレ之ヲ。

秘密傳云。宀一山ノ宝珠ハ、令（カ）記如来ノ頂（16ウ）骨也。次ノ二處ハ、即、東寺甲乙ノ舎利也。即、背骨ハ此レ甲、脇骨ハ此レ乙也。八十粒ハ即、表如来八十種好ヲ。宀一ノ頂骨ハ、卅二粒性成ノ玉ナリ。即、表卅二相ヲ也。此レ、一十六分ノ頂骨也。即、一寸六分ハ、是レ十六大菩薩。此十六圓満拳菩薩、此即大日也。本有金剛故、即、兩部不二ノ宝珠也。亦、衆（17オ）生ノ肉心モ一寸六分ナリ。此即、其ノ心也。

奥砂子平法第二十五章

相承至極秘決ニ云。此レ、如法愛染王ノ法也。宝珠所變ノ愛染ナルカ故ニ云ニ。如意宝珠愛染ト也。此ノ法ハ、調伏ニ兼ヌ敬愛故、降三世ノ調伏ニ行レ之ヲ。最極秘説。一身二頭、調伏敬愛兼具ノ尊也。凡ソ、於愛染王ニ有リ（17ウ）二傳。一身二頭像依愛染品。一頭六臂ノ像常像依愛染。王品常傳ハ、六臂像ヲ為本尊ト。最極秘説、一身二頭像ヲ為スル本尊ト也。貞観寺ノ御記、思之ニ。今一身二頭ノ像、忿怒ト敬愛トヲ一身ニ具レ之ヲ。即、提ニ黒業殃蛇ヲ、而以テ恵剱ヲ載レ之ヲ。殃蛇即死シテ、密花薗安寂ナリ也。（18オ）彼ノ三毒殃蛇、能ク損シ衆生心身ヲ、亦能作ニ國土ノ災害ヲ。令レ破ニ正法ノ種ヲ、今以テ大染无相ノ恵剱ヲ、殺ニ彼三毒ノ砂子ヲ、令三増ニ長セ正法ヲ。故ニ亦云フ避砂子平ト也。奥ト者、訓ス摂。砂子ハ即、凶婆非禰ノ輩也。此即、外道天魔ノ名也。

一、彼ノ法呂者、在リ入室ノ弟子宀一山精（18ウ）進嶺ノ土心水師之竹木目底ニ文。

今、法呂ト者、指シ本尊ヲ也、兼法ヲ也。即、五指量愛染王ノ像也。此、自鐵塔ニ相承スル之、即納ニ彼ノ峯ニ也。三寸不動、是、台蔵三部合躰ノ表示也。愛染ノ五指量ハ、即、金界五部冥會ノ尊像也。雖トモ三五不同アリト、分量ハ是一ナリ。台内ノ五點（19オ）成身ノ寸量也。三尊一躰ノ事ハ、灌頂品ノ意也。即、頂上ハ摩尼。右ノ臂ハ観音、左ノ臂金薩ト云々。今観音、即、敬愛本源、愛染ノ内證也。金薩ハ、即、金剛部、不動肉徳也。甚秘々々已上。

一、是道惜護、宛如シ傳法灌頂阿闍（19ウ）梨職位印契密語ノ文。

此三尊合修ノ法呂ハ、即、灌頂修行ノ法也。故、指テ法ニ比ス灌頂ニ。此ノ三尊ハ、即、三弁宝珠。此、心内ノ三識、衆生ノ三業、法佛ノ三密也。是即、灌頂ノ本源也。灌頂ニ所ハ傳ニ、行者三密。々々躰性ハ、六大法尓ノ宝塔也。今、傳法灌頂者、初二（20オ）重ノ位也。阿闍梨職位者、第三重不二ノ源底、並ヒニ三部五部都法ノ大阿闍梨位ノ印明也。或傳ニハ、傳法灌頂者、三重共ニ摂レ之ヲ。阿闍梨職位者、即、都法大阿闍梨位ノ印明也。

〔此（ウラ）三尊合行秘法者、源ト以（瑜紙）経ヲ為ニ本経ト也。三尊一躰、各別三尊之（20ウ）旨、同彼ノ經ニ説之ヲ。各別ノ事、初、染愛々染ノ二品、此今、右方所観ノ尊法也。奥ノ二品ニ、明王並ニ金剛夜叉。此今、左方ノ白蛇也。二明王ノ惣躰、即、不動明王也。〕

一、凡、須（灌頂）ノ傳法印契密語、並テ調凶婆ヲ法呂ハ、輙不可授ニ非器心不調ノ者ニ文。（21オ）

此三法、即、灌頂修行ノ尊故ニ、以ニ灌頂印明ヲ、本尊加持ニ用之ヲ。並調者、三尊並テ行シ、能ク調スルカ彼ノ三毒三妄之凶婆ヲ故ニ、即、宝珠、此ノ大定、能ク破ス癡蛇ヲ。癡能生ニ一切ノ煩悩ヲ。宝珠、亦雨ス万法ヲ。奥砂ハ降シ嗔ヲ、避蛇ハ破ス貪ヲ。大染敬愛ノ々染ハ、能破ス嗔恚ヲ。調伏ハ大悲ヲ為本ト故ニ、忿怒（21ウ）大智不動ハ、能破ス貪ヲ。此一々ノ尊、三密ノ行躰ナルカ故、三尊各具シテ三尊ヲ、三々九密、此ヲ界凡愚ノ為スル性功徳ト也。

已上、後四章秘決畢。

一、第一章段ニ、最極ノ秘説在レ之。即、三尊一躰ノ習、是也。初段ハ是、東寺一家大事、真言成立ノ秘曲、具ニ被遺告之ヲ一。即、大師ハ（22オ）是、即身成佛之真人、秘宗最初ノ高祖也。今、以二大師ヲ一為二三寸（尊）合行ノ本寸一、是為スル二最上ノ秘決一也。自宗ノ意、六大平等ニシテ、凡聖是一故、大師即我身、々々是レ諸佛、々々即衆生也。仍、大師為本寸一、此最極ノ重也。依此ニ、祖師義範僧都ハ、恒ニ以大師ヲ一為二本寸一、四時ノ行法（22ウ）无二退轉一、常ニ与二大師ノ影像一物語在レ之。承仕ノ輩ラ、旁ニ聞レ之云云。

一、鷲峯視聴傳流中州文。

秘傳云。大師ハ是、我朝ノ國王、天照太神ノ應作也。天照太神、元ト在テ二此ノ土天一ニ、名二大日霊貴一、更ニ往二如来在世一ニ、親リ侍ヘテ二如来前一ニ、聴二受シトヒキ秘密奥義ヲ一。其ノ名、号二光明遍（23オ）照高貴徳王菩薩一。与二大日霊貴一同名也。亦、威光菩薩トシテ往シ二日宮一ニ、遍ク照テ天下ヲ一、防キ二修羅之障難一ヲ、今亦住シテ二日域一、号シテ二遍照金剛一ト、令シム三増二金輪之聖福一ヲ。甚深ノ密意、思之一。亦、大師ハ是、龍猛・金智之後身。龍猛菩薩ハ、即、観自在王如来ノ應現、如意輪観音ノ化身ナリ。今、一傳ニ、以テ二如意輪ヲ一為スル本寸ト（23ウ）傳、大師ヲ為スル本寸一ト意ト、此モ同也。此即、大師、天長八年二月六日、正ク真雅阿闍梨ニ授之ヲ一給フ法、甚秘思之一。

今、大師三尊合躰スルニ、有二傳一。一ニハ大師因位童形ヲ為本尊一ト也。二ニハ大師果位ノ遍照金剛ノ影像、是也。童形ハ即、名貴物一ト、亦号二神童一ト也。昔ノ遍照・高貴ハ不二之一号ヲ今（24オ）分ケ二而二一ニ、因位ヲハ云貴物一ト、果悟ヲ云二遍照一ト也。此即、天照太神ノ化作故ニ、云神童一ト也。即、文云。年始十二、号ス二貴物一ト文。此即、霊貴ト与高貴一、昔ノ嘉号、是也。十二歳、即破スル二十二因縁一ヲ表示ナリ。故、呼テ十二ヲ為二本誓一ト也。彼ノ因位ノ童形ハ、即、赤色ノ童子、左右持二輪釼一ヲ像也。立二宝石ノ上一ニ、或ハ坐八葉ノ蓮上一ニ。□。（24ウ）注文八葉蓮。花上像上ニ有二二龍像一。八寸金色ノ龍、居二在九尺ノ龍ノ上一ニ。甚秘傳云。左ノ輪手ヲハ、不動尊ノ三形ト習レ之。仁王秘曼荼羅圖思之一右ノ釼手ハ是、染愛明王ノ三形ト習レ之。頂上ハ此、宝珠。即、如意輪ノ三形也。童即表二ス无垢一ヲ。以テ表二示スル宝珠義一ヲ也。赤ハ此、敬愛ノ義。観音ハ以敬愛一義、観音ハ以敬愛一ヲ為内證一ト。亦、坐ス（25オ）盤石一ニ、即、表不動ノ徳一。或坐シテ二八葉蓮一、顕二如意愛染ノ徳一ヲ也。二ノ龍、居空一ニ。即、表二宝珠佐助ノ義一ヲ、亦、顕ス二甘雨普潤義一ヲ。

〔弘仁十一年（四十五歳）十月廿日

任内供奉十禅師

此歳、八十花嚴經一部書寫供養云云。〕

大師、宝亀五年甲寅御誕生。（25ウ）

讃岐國多度郡屏風浦人也。國者即、聖人降誕國故、諸衆讃之。聖人多度人故、云多度一ト。亦、度二廻邪生一故、云二并風浦一ト也。

〔（ウラ延暦元年戊壬）八九歳、公使見此児、随二従四天王一下礼拜。自レ此、隣里人、稱二神童一ト也。〕

〔今（ウラ）、大師ノ御法号ニ有二三名一。即、三尊一（26オ）躰ノ故、具スル三名一ヲ也。即、左手白蛇之徳ヲ云二教海一ト也。教海、此 ta 字ノ言。教ハ即、大悲ノ白蛇、栖二性海一ニ義也。如空ハ即、右ノ殃蛇ノ徳也。以二如空无彼ノ恵一ヲ、殺スル黒業殃蛇一ヲ故也。恵釼ハ是、五古釼也。次ニ、空海即、不二ノ秘号、宝珠ノ密号也ウラ〕。

次ニ、果悟遍照金剛。空海大師、以テ為スト（26ウ）三寸冥會像一ト者、即、右手持二五峯杵一ヲ。此、愛染王ノ三形。左ノ手ニ執二念誦一ヲ。即、不動明王ノ三形、羂索ト習之一。百八三昧念珠ノ糸ト、能ク縛ス二百八煩悩一ヲ。頂上ハ即、如意宝珠。 ta 經ニ云。頂上摩尼部、右ノ臂蓮花部、左ノ臂金剛部。甚秘思之蓮花即、敬愛ノ尊。此、愛染ノ本身ナリ。金（27オ）薩即、不動能反也。甚秘々々、勿レ言之一。亦、坐シテ床一ニ表二シ須弥不動ノ座一ヲ、下置二水瓶一ヲ、表二愛染ノ宝瓶一ヲ。亦、尊ノ上ノ空ニ置ク二龍一ヲ、顕ス二宝珠佐助ノ義一也。梵号即、 ta 。此ヲ云二空海一ト。空ハ是 ta 字ノ大空、本

不生ノ地大、能ク生二万物ヲ一。海即、ぁ字ノ性海、登二大空一ニ、能潤二万物一。今、ぁぁ（27ウ）不二、是、宝珠圓徳、理智冥合之尊像也。

〔大師御名、初教海、次如空、後ニハ空海也。如空ぁ、教海ぁ、此ノ二名ヲ合シテ云二空海一ト。即、不二ノ秘号也。海水ハ必自空一降タル故ニ、云二空海一ト也。如空ハ此、ぁ字真如、大地ハ即、大空无相理也。教海者、海ハ即（28オ）ぁ字性海、能ク發テ言説波浪音一ヲ、教二化衆生一ヲ故ニ、云教海一ト。如空ハ約シ二台蔵一ニ、教海ハ約二金界一、空海ハ即、不二源底也。〕

〔亦、秘傳、以二大師一ヲ為二愛染明王一時、右五古、愛染ノ右ニ所執一五古也。念誦ノ手ハ、鈴也。鈴ハ即、□□（表説）法義（義）ヲ。念誦、亦此説法□、以二音聲一為徳一也。以二水瓶一為二宝瓶一也。（28ウ）以二大師一一向為二愛染一也。〕

一、大餘惣掌文。

大法同味ヲ一、興廢任機ニ一文。

秘傳ニ云。大法ト者、両部ノ大法、即法、即台蔵、五大ヲ為宗一ト。金界ハ五智為本一ト。而五輪即是五智輪ノ故、五大即五智也。此云同味一ト也。

此、當流相承三重灌頂大（29オ）事、不二而二、随機一ニ興廢、思之一。

一、鷲峯ニ視聴シ、傳流スト中州一ニ者ハ。

此ハ、明シ二顕教相承一ヲ、兼テ示二密蔵ノ傳来一ヲ也。中州即、指ス二我朝日本一ヲ也。鐵塔ニ傳ヘ教一ヲ、利二見スト烏卯一者、此唯、密教傳来也。烏ト者、日也。日ノ中ニ有レ烏故、卯ト者、東也。即、指二日本一ヲ云二烏卯一ト。日本ハ、自二西天一即東方（29ウ）故、對二西天一云卯一也。

一、示成立ヲ由中ノ文ニ。

生年五六之間、常ニ居坐シテ八葉ノ蓮花之中一ニ、諸佛ト共ニ語也文。

秘傳云。此三寸（尊）一身ノ像、示之一、五六歳赤色童形、令レ坐二蓮花一。夢見ノ事、習之一、号二貴物一ト。年始十二ト云云。（30オ）

此ノ住ノ童形ヲ、令レ坐二宝石ノ上一ニ也。上ノ五六、即、五智五輪、六大冥會位也。此ハ内證ノ秘徳、能破スル二十二因縁流轉ノ輪一ヲ故ニ、云二年始十二一ト也。

従二天竺一國一聖人傳来文。

秘傳云。天竺一ノ聖人者、指ス二龍猛大士一ヲ也。大師此、龍猛ノ後身ナルカ故、請来ノ表見タリ。（30ウ）

十五歳入京、初逢二勤操僧正一、受二大虚空藏並ニ能満虚空藏法一、入心一念持スト云云。

一、受ク二大虚空蔵菩薩並ニ能満虚空藏法呂一ヲ文。

秘傳云。大師、最初ニ、入唐以前ニ習二學スル虚空蔵法呂一ヲ事、甚秘ノ習ヒ在リ之一。宝（31オ）珠・大師一躰習、尋之一ヲ。亦、明星入口一ニ、虚空蔵光明照来等文。明星即、五大虚空蔵法界円明ヲ、會ス二明星円明一ニ。大師ハ、即、五大虚空蔵、五辨宝珠ノ惣躰、明星圓明日月不二、光明遍照ノ秘事也。入口一ニ、即、為ス二内證ノ玄極一ヲ也。更開二自證秘宮一ヲ、両部大教ヲ傳二於大（31ウ）唐一ニ。今、大師此明星圓明五大虚空蔵不二宝珠ノ全身ナルカ故、以二大師一ヲ為二本尊一ト、為二最上秘説一ト也。

一、入心一ニ念持文。亦入口一文。

秘決云。明星ハ是、日月不二、五智円明、五大虚空蔵ノ躰ナリ。虚空蔵ハ即、宝珠ノ異名ナリ。宝珠ハ此、南方夏ノ時ノ、万法（32オ）生長シテ、万宝鉤召スル時分ナリ。而心是、胸ノ火夏方、口ハ亦舌ナリ。心蔵ナリ。宝部宝生ノ所依也。以口一ヲ為爐一ト、能發二智火一ヲ。是、宝部三昧躰故、以二心口一ヲ為依一ト也。

一、大日本國高市郡久米道場東塔ノ下ニ有二大日經一事

秘決云。此等ハ皆、宝部管ノ義大日、帝（32ウ）皇ハ恒住二南方ノ宝部一ニ、為ス二法王ノ位一故ニ、大日本國依報ノ宝土ハ一ナリ。宝珠ハ此、大日ノ尊躰ナリ。大日經ハ、正ク大日三密ノ教義也。高市是、万宝鉤召ノ所ナリ。米ハ即、舎利ノ異名、西天ニハ呼テ米粒一ヲ為ス舎利一ト。法尓久遠ノ宝珠故、云二久米一ト也。東塔ハ亦、宝部義。東寺ト、青龍ト、東塔（33オ）院トハ、皆是、真言相應秘号也。宝部ハ是、大日所住ノ故ニ、彼處ニ元ヨリ有二經王一。

甚秘々々。

一、胎藏金剛兩部秘密法事

一、善如龍王事

一、是非凡徒三地ノ菩薩ノ事

秘決云。大師ハ是、發光地菩薩。此即、観音（33ウ）所管ノ法門也。以十地ヲ配十方ノ時、□(二)地是レ、南方ノ宝部ナリ。宝光之躰ナリ。是、観音入宝部ノ三昧ニ、今、大師観音化現トシテ、而入南方ノ宝部ニ。故云三地菩薩ト、亦住南山ニ、入宝部ノ三昧ニ也。

三地發光ノ菩薩ヲ即為スル観音ト事

金剛界ノ次第ニ見タリ。以大師ヲ為本尊ト、究（34オ）竟秘事也。此、如意輪・龍猛・日天、並ニ天照大神一躰冥會ノ尊ナルカ故ニ、一々ノ文段、別ニ亦在レ之。

已上、先師大僧正示授口決也。紙面ニ雖不レ載之ニ、為末資ニ記之ニ而已。

〔問(ウラ)。何故、大師入定ニ給哉。答。大師此、第三發光地ノ菩薩、即、観音西方□(弥陀)也。（34ウ）一切ノ定ハ□(此)弥陀ノ三昧□十二光佛、思之ニ。今、發光得光ハ弥陀三昧、観音内證也。今大師此観音故ニ、云遍照金剛ト。而現入定門ヲ也。亦、以六度ヲ配六方ニ時、第三地、即西方也。西方亦、観音也。西方諸観音中、以六臂ノ如意輪ヲ為根本ト也。第六ノ意識、通シテ五（35オ）識ニ俱轉ス。故、六臂即六識所管也。〕（35ウ）

嘉暦二年乙卯十二月廿四日、於

大裏仁壽殿三對屋、相承

甚秘大事、為付法一人記之。

附法外、不可有外見、勿違々々。

内供奉十禅師菩薩苾蒭　殊音（36オ）（白紙）（36ウ）

丈六堂聖教箱ニ在之。尤

可秘々藏々々、不可有外見者

也。

松橋末流救菩提沙門尭（37オ）（裏表紙見返）

【参考】醍醐寺蔵『御遺告秘決』表紙および識語

〔識語〕

這一帖古本、殊更依于破損、為備後證本、一字不違令摸寫訖。但虫毒(害)故、所々字形不見分。重而求他本、可補之者也。誠殊勝之秘決、拜閲拭感涙而已。

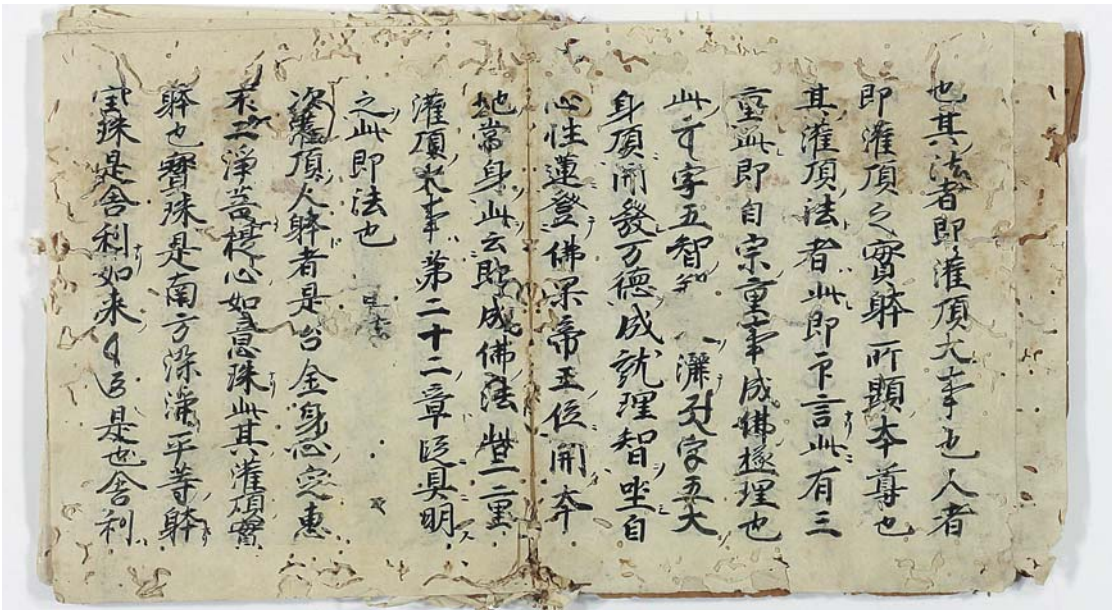
寛文十一稔五月廿二日奎宿日曜　松門末葉公圓

（表紙）

（包紙表）

（1オ）

（表紙見返）



（2オ）

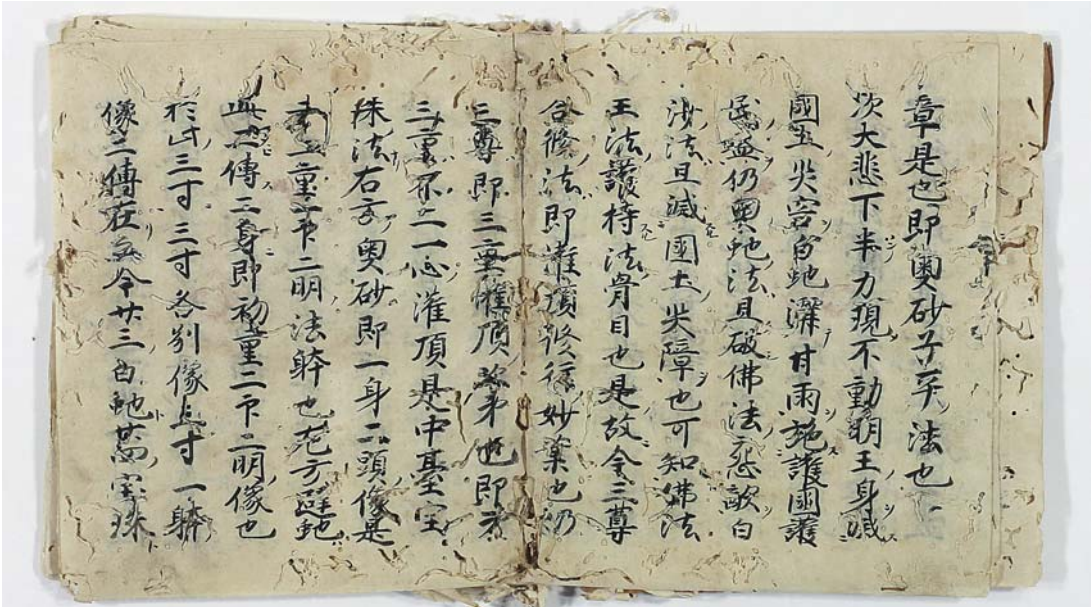
（1ウ）

（2ウ）

（3オ）

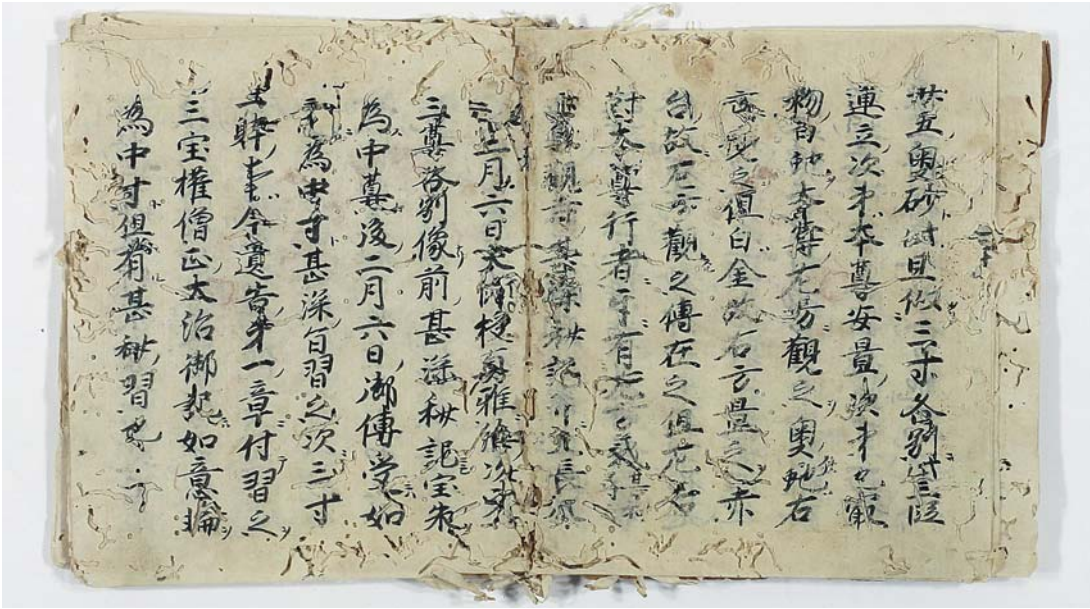
（3ウ）

（4オ）



（4ウ）

（5オ）

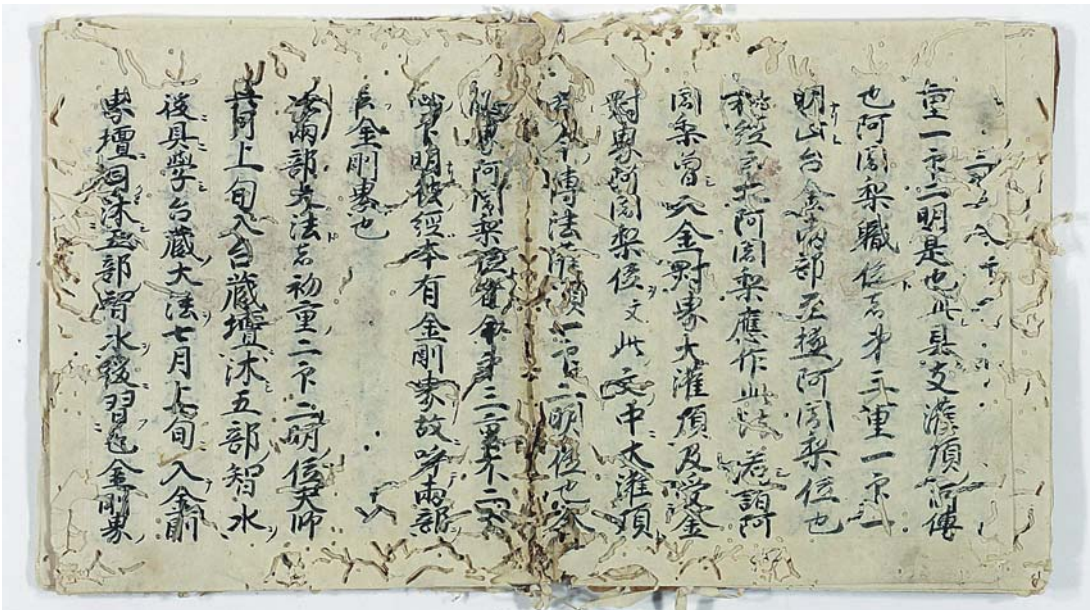


（5ウ）

（6オ）

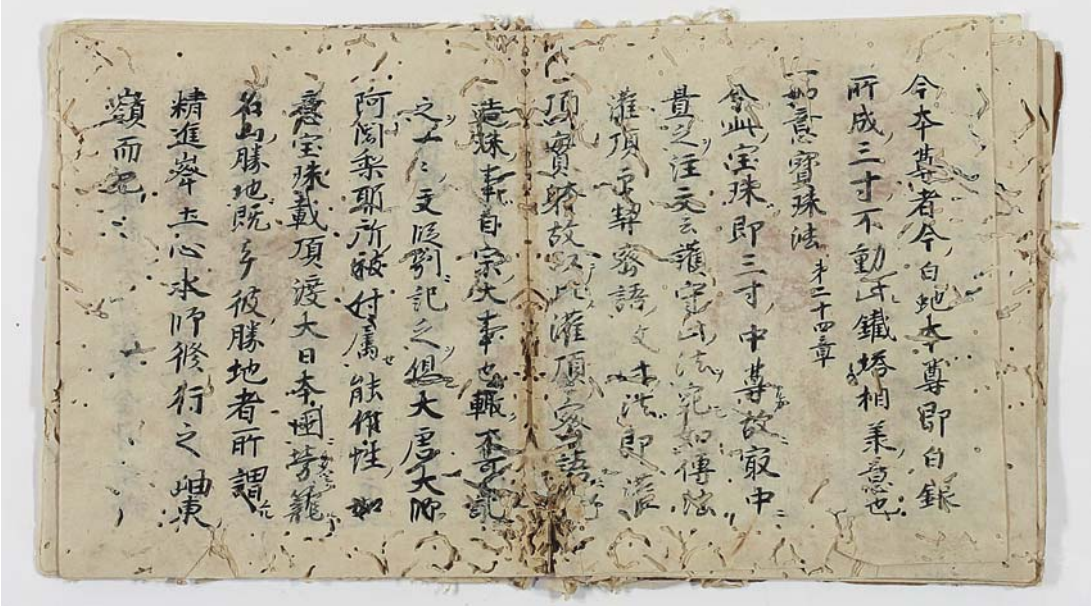
（6ウ）

（7オ）



（7ウ）

（8オ）



今本慧者今白地本尊即白銀
所成三寸不動尊鐵塔相美意也
如意寶珠法 第二十四章
今此宝珠即三寸中尊故取中
貴之注云護宝山法宝如傳法
灌頂寶幢故以此灌頂寶幢
造珠事自宗大事也報恩記
之上支度別記之但大唐大阿
阿闍梨耶所授付属能作性如
意宝珠載頂渡大日本国芳籠
名山勝地既与彼勝地者所謂
精進峯五心水所修行之地東
嶺而已

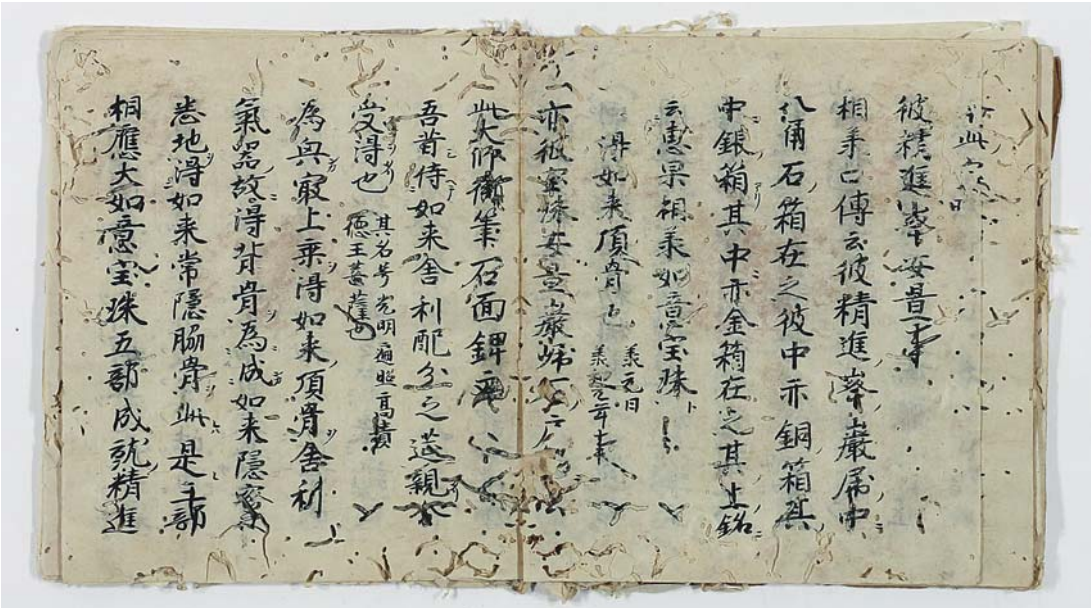
（13ウ）

（14オ）

今此宝珠即大日如来全身諸佛
并通三形是塵數三昧聚故此
宝珠安彼山彼山即日本国中心
此国其像似獨古今宝珠彼
獨古中心安之日本記云大日之
名稱形也今宝珠在所国故
本日国也注云舎利珠一異
准此文相傳之
問今宝珠大阿初相美安彼
国名即元在之如何答付云云
慧不知相美而我朝元在之
亦法相宗本論三十頌之尊
本前我国在之彼五天佛滅
後八百年在之慧研上

（15オ）

（15ウ）



此宝
彼精進峯安置
相美亡傳云彼精進峯巖屋中
八角石箱在之彼中亦銅箱其
中銀箱其中亦金箱在之其上銘
云慧果相美如意宝珠
得如来頂骨也 美元日 美聖年号
亦彼宝珠安置巖窟
此大阿闍梨石面鉢乗
吾昔侍如来舎利配分之遂親
受得也 其名号宏明遍照高貴 德王菩薩也
為與寂上乗得如来頂骨舎利
氣器故得背骨為成如来隠密
巷地得如来常隠脇骨此是二部
相應大如意宝珠五部成就精進

（16オ）

（34ウ）

（35オ）

（35ウ）

（36オ）

（36ウ）

（裏表紙見返）